

いわき市子どもの生活実態調査結果について

1. 調査の概要

(1) 目的

地域における子ども・子育て支援に係る課題を把握し、課題解決に向けた仕組みづくりや新たな事業構築などの対応策を検討する。

(2) 調査対象等

- ① 調査対象：小学5年生がいる世帯（保護者・児童） 1,500 世帯
 中学2年生がいる世帯（保護者・生徒） 1,500 世帯
- ② 調査方法：学校を通じて配布・回収
- ③ 調査期間：令和元年6月28日～令和元年7月16日

(3) 回収結果

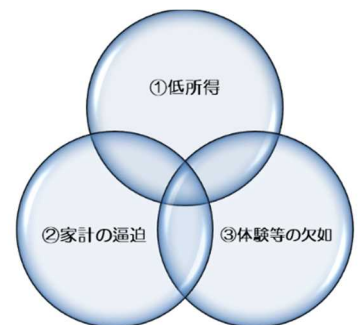
調査対象		配布数	総回収数(率)	有効回収数※ (率)	うち親子回答を 紐づけできた 世帯数(率)
小学5年	児童	1,500	1,117(74.4%)	1,111 (74.1%)	1,075 (71.7%)
	保護者	1,500	1,119(74.6%)	1,116 (74.4%)	
中学2年	生徒	1,500	1,198(79.8%)	1,193 (79.5%)	1,170 (78.0%)
	保護者	1,500	1,201(80.1%)	1,196 (79.7%)	
合計		6,000	4,635(77.3%)	4,616 (76.9%)	2,245 (74.8%)

※1項目でも回答のあったものについては有効としてカウント。

2. 結果の概要

世帯の経済状況や家庭環境などによる生活困難度を把握するため、親子回答を紐づけできた世帯について、「①所得」、「②家計の逼迫」、「③子どもの体験や所有物の欠如」の3要素のうち、2つ以上に該当する世帯を「困窮層」、1つに該当する世帯を「周辺層」、また、両者を合わせて「生活困難層」と定義づけした。

区分	世帯数	構成比 (%)
生活困難層	462	20.6
困窮層	182	8.1
周辺層	280	12.5
一般層	1,653	73.6
生活困難度の把握が困難	130	5.8
合計	2,245	100.0



- ①所得：年間の収入合計「200万円未満」
- ②家計の逼迫：経済的な理由で、食料、衣類を買えなかった、公共料金を支払えなかった経験がある
- ③子どもの体験：経済的な理由で、体験（誕生祝いやお年玉等）や所有物（本や文具等）がないや所有物の欠如

【生活困難層の内訳】

区分	世帯数	世帯の内訳		
		ひとり親	ふたり親	その他
生活困難層	(20.6%) 462	(55.5%) 172	(14.5%) 261	(21.3%) 29
困窮層	(8.1%) 182	(30.3%) 94	(4.4%) 79	(6.6%) 9
周辺層	(12.5%) 280	(25.2%) 78	(10.1%) 182	(14.7%) 20
一般層	(73.6%) 1,653	(40.3%) 125	(80.8%) 1,453	(55.2%) 75
生活困難度の把握が困難	(5.8%) 130	(4.2%) 13	(4.7%) 85	(23.5%) 32
合計	(100.0%) 2,245	(100.0%) 310	(100.0%) 1,799	(100.0%) 136

※上段（）書きは構成比

3. 主な調査結果

(1) 受けさせたい教育の段階（保護者） （単位：％）

区分	高校まで	短大・高専・ 専門学校まで	大学・大学院	まだわからない
一般層	10.7	19.2	46.1	22.7
生活困難層	35.3	17.7	22.3	23.2
うち困窮層	44.5	17.0	17.0	19.8

- 生活困難層の方が「高校まで」とする回答が多く、困窮層については、半数近く（44.5％）が「高校まで」と回答している。
- 一方、「大学・大学院」とする回答は、一般層で半数近くいるのに対し、生活困難層では1/4弱に留まっている。

(2) 受けさせたい教育の段階の理由（保護者）

（単位：％）

区分	一般層	生活困難層	
		困窮層	
子どもの学力から考えて	37.3	35.7	33.9
子どもがそう希望しているから	38.0	28.9	26.1
経済的な余裕がないから	8.5	35.0	48.3
それ以上の必要性を感じないから	5.4	5.3	6.7
自分もその段階までの教育を受けたから	4.1	4.8	6.1
その他	25.4	17.5	16.1

- ・ 一般層は、「子どもがそう希望しているから」、「子どもの学力から考えて」の順となっているのに対し、生活困難層は、「経済的な余裕がないから」が2番目に多い理由となっている。
- ・ 「経済的な余裕がないから」については、一般層に比較して生活困難層が高くなっている。とりわけ「困窮層」では、約半数が理由として挙げている。

(3) 学校・塾以外の学習支援（保護者）

（単位：％）

区分	利用したことがある	利用したことがない	
		利用したい	利用したくない
一般層	5.3	47.6	48.6
生活困難層	3.9	49.7	45.7
うち困窮層	3.3	56.2	38.5

- ・ 生活困難層及び一般層のいずれも、大半が学校・塾以外の学習支援を利用したことがないが、そのうち半分程度が利用したいと回答している。

(4) 子育ての心配事や悩み事（保護者）

（単位：％）

区分	進学や受験	教育費	しつげに自信がない	子どもが勉強をしない
一般層	44.3	26.6	19.7	16.2
生活困難層	54.5	55.2	29.7	27.9
うち困窮層	61.5	68.7	31.9	28.6

- ・ 一般層と比較して、生活困難層の方が悩みを抱えている割合が高い。
- ・ なかでも「教育費」、「進学や受験」について、生活困難層が一般層よりも多く悩みを抱えている傾向にある。

(5) 不安や悩み事 (子ども)

(単位：%)

区分	勉強	進学や将来	友達	家族	ない
一般層	25.0	22.5	15.8	3.9	52.0
生活困難層	30.7	28.6	16.0	6.3	43.5
うち困窮層	31.3	28.0	16.5	8.2	46.2

- ・ 「友達」関係の悩みには差はみられないものの、「勉強」、「進学や将来」等については、生活困難層の方が一般層よりも悩んでいる子どもの割合が多い。

(6) 心配事や悩み事の相談先 (子ども)

(単位：%)

区分	父母	兄弟姉妹	祖父母	親戚	先生	地域の人	友達	いない
一般層	70.7	21.4	22.7	6.1	29.6	1.7	63.2	4.9
生活困難層	63.6	18.2	19.7	6.3	24.2	0.6	61.9	6.1
うち困窮層	59.9	20.9	19.2	8.2	20.9	0.5	63.2	5.5

- ・ 生活困難層と一般層ともに、「父母」、「先生」、「祖父母」の順となっており、悩みごとの相談先の傾向はおおむね同様となっている。
- ・ また、「地域の人」は1%程度にとどまっており、相談相手が「いない」子どもが5%程度となっている。

(7) 物の所有状況 (子ども) …「ない」と回答した子どもの割合

(単位：%)

区分	年齢に合った本	自宅で宿題ができる所	勉強机	携帯電話・スマートフォン等
一般層	6.2	4.1	14.5	39.5
生活困難層	12.3	11.3	26.4	36.1
うち困窮層	14.3	13.2	28.6	38.5

- ・ 生活困難層は、一般層に比べて、「本」や「勉強机」など、学習の環境が整っていない子どもの割合が多い。
- ・ 一方、「携帯電話・スマートフォン等」の所有率については、一般層、生活困難層ともに同程度となっている。

(8) 学習に関する利用のニーズ (子ども)

(単位：%)

区分	静かに勉強できる所	大学生が 勉強をみてくれる所	地域の人が 勉強をみてくれる所
一般層	39.9	23.5	13.2
生活困難層	41.5	25.8	14.9
うち困窮層	46.5	26.5	18.5

- 生活困難層及び一般層において、自宅で勉強できない時に「静かに勉強できる所」の利用希望が4割程度になっているが、困窮層のニーズが比較的高くみられる。